

生涯現役アンケート調査報告書

－概要版－

調査の概要

- 調査目的：平成22年に策定した「生涯現役推進計画」が10年経過し、令和3年度から新たな計画の基で、各種施策を進めていく。それに際し、これまでの10年間で振り返り評価するとともに、新たな課題を次期計画に反映することでさらに生涯現役推進施策を推し進めることを目的とする。
- 調査対象：市内に住所を有する50歳以上の方の人3,500人
- 調査期間：令和元年8月1日～同月30日
- 回収率：57.9%（回収数：2,025件/配布数：3,500件）

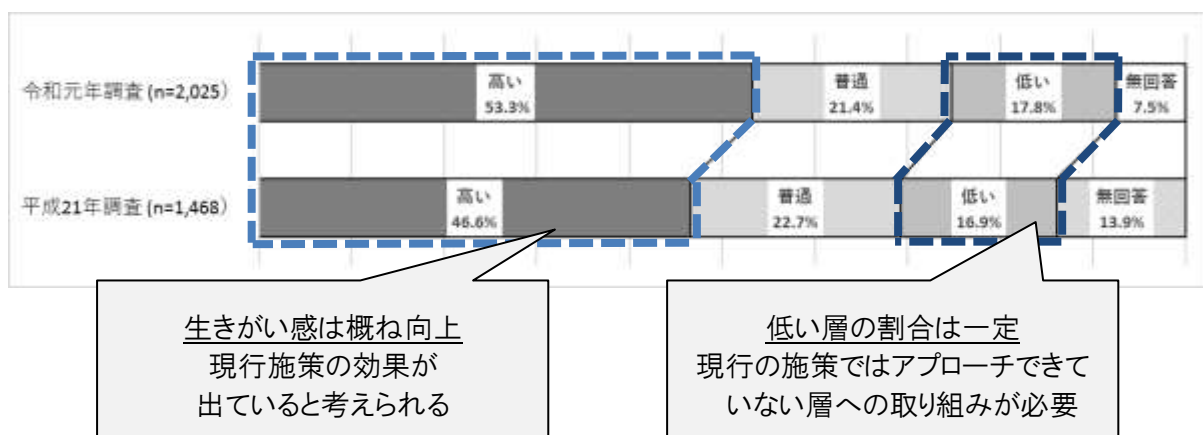
アンケート調査分析結果

- 過年度調査と比較して「生きがい感」が向上しており、現行の施策が一定の効果を発揮している。
- 「生きがい感」が低いと回答した人の割合は、過年度調査とほぼ同様で、現行の施策ではアプローチできていない一定の層への取り組みが今後必要となる。
- 生涯現役であるために重要な「生きがい感」は、「健康・運動」、「役割・就労」、「外出・交流」等により影響を受けている。

生きがい感について

「生きがい感」は過年度調査と比較して概ね向上しており、現行の施策が一定の効果を発揮していると評価できる。一方で「生きがい感」が「低い」と回答した人の割合は、過年度調査とほぼ同様であった。現行の施策ではアプローチできていない層への取り組みが今後の課題であると考えられる。

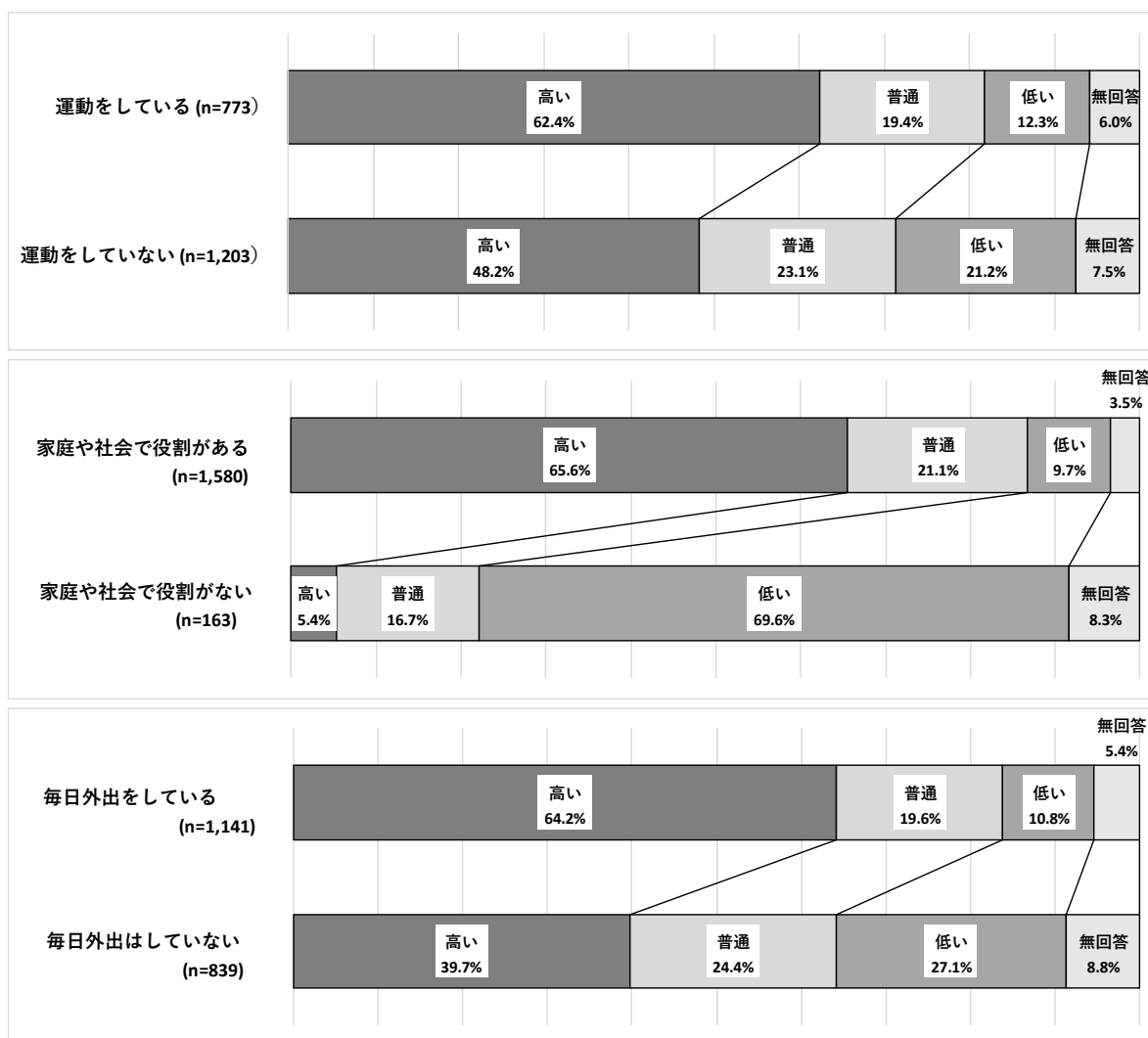
図－1 生きがい感の推移



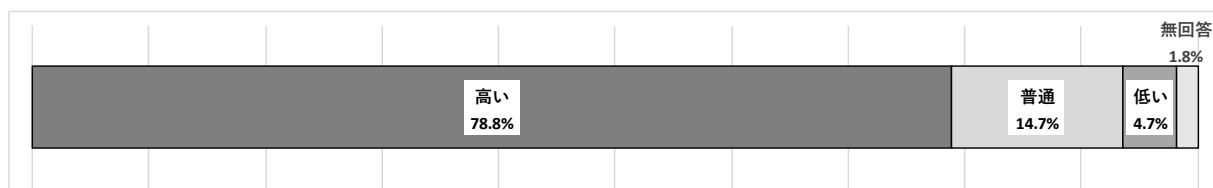
生きがい感に影響を与えている要素

運動している人、家庭や社会で役割がある人、外出頻度が高い人は生きがい感が高い傾向にあり、その全てに該当する人の生きがい感は、高い割合が78%を超えている。それぞれの要素をさらにみていくと、運動には健康が、家庭や社会での役割には仕事が、外出にはコミュニケーションが関係しており、「健康・運動」、「役割・就労」、「外出・交流」が「生きがい感」へ影響を与えていることが示唆されている。

図ー2 生きがい感と運動、役割、外出の関係



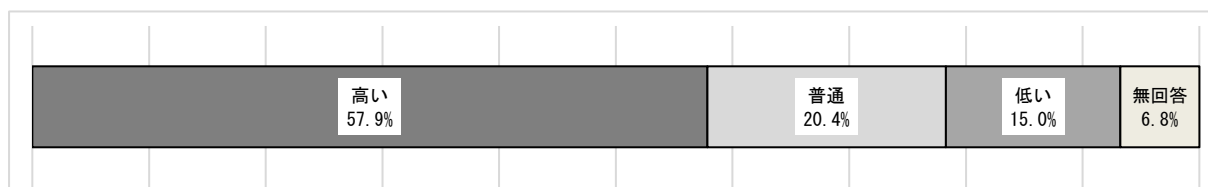
図ー3 運動をし かつ 役割があり かつ 毎日外出をしている人 (n=449) の生きがい感



「健康・運動」について

生きがい感が高い人ほど、健康のために何らかの取り組みを行っている。健康づくりへの関心は年代を問わず高く、具体的な取り組みを行っている人も多いという傾向がみられた。

図ー４ 「健康のために何か取り組んでいる」と答えた人（n=1,611）の生きがい感



図ー５ 健康のために取り組んでいること

	n	食事の習慣や 内容の改善	運動	適切な睡眠 や休養	肥満、痩せすぎを 防ぐ体重調整	特にない
50代	477	41.1%	30.4%	37.3%	21.2%	23.1%
60代	599	45.9%	39.2%	42.6%	24.5%	17.4%
70代	669	48.3%	43.5%	42.2%	20.5%	15.5%
80代以上	260	42.3%	37.3%	43.8%	14.2%	17.7%

年代を問わず、7～8割の人が健康のために何らかの取り組みを実施し、「健康」に対する関心が高い

健康づくりに関する具体的な取り組みを行っている人が多い傾向にあるにも関わらず、現在の不安や悩みを尋ねると、「自分の健康」や「家族の健康」と答えた割合が大きくなっている。また、関心のある地域や社会の課題を尋ねると、相当数の人が「健康に関する課題」を挙げていることから、健康のために取り組んでいることが十分な効果を発揮していない、運動や健康に関心はあるものの何をしたら良いか分からないという状況が生じている可能性があるという課題が浮き彫りになった。

図ー６ 現在の不安や悩みについて

	n	自分の健康 や病気	家族の健康 や病気	今後の生活費	親や親族の介護	子どもの将来	心配や悩みは 特にない
50代	477	52.2%	44.0%	52.6%	38.2%	38.8%	7.5%
60代	599	57.9%	49.2%	44.2%	21.2%	31.2%	9.5%
70代	669	65.8%	45.4%	34.4%	6.1%	21.4%	11.2%
80代以上	260	73.1%	41.2%	21.9%	3.5%	13.1%	12.3%

5割程度の人が「自分の健康」や「家族の健康」に不安がある

図ー７ 関心がある地域や社会の課題

	n	高齢者に 関する課題	子ども・子育てに 関する課題	観光に関する 課題	防災・防犯に 関する課題	健康に 関する課題	関心がある地域や 社会の課題はない
50代	477	47.0%	28.9%	19.5%	33.1%	44.2%	9.0%
60代	599	47.4%	20.0%	20.7%	37.1%	52.8%	7.7%
70代	669	52.3%	10.0%	14.1%	33.5%	54.0%	7.0%
80代以上	260	52.7%	7.7%	7.3%	27.7%	46.2%	5.4%

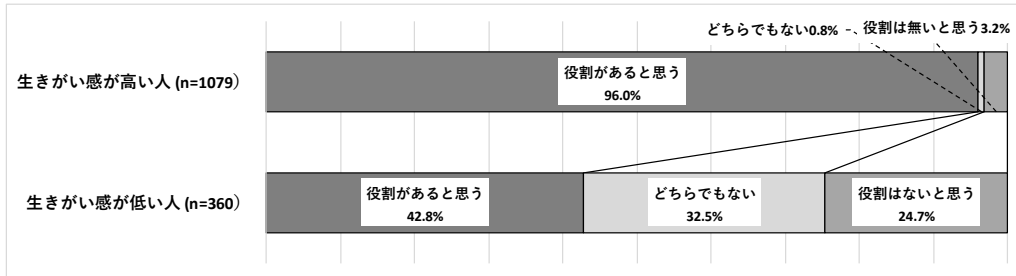
相当数の人が「健康に関する課題」を挙げている

「役割・就労」について

家庭や社会で役割をもち、貢献や自己成長の機会がある人ほど生きがい感が高い傾向がみられる。

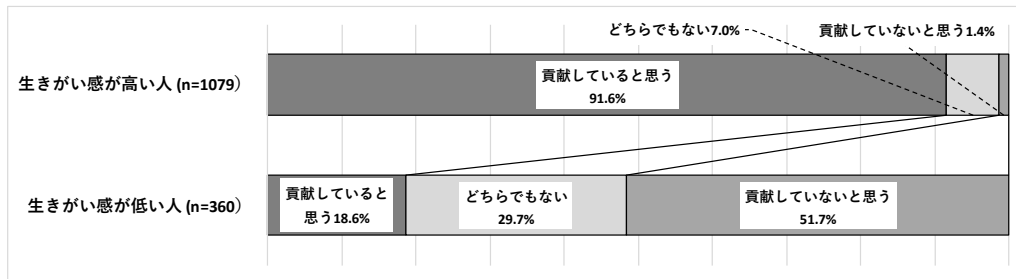
図－８ 生きがい感と役割の有無について

【家庭の中または外に役割がある】



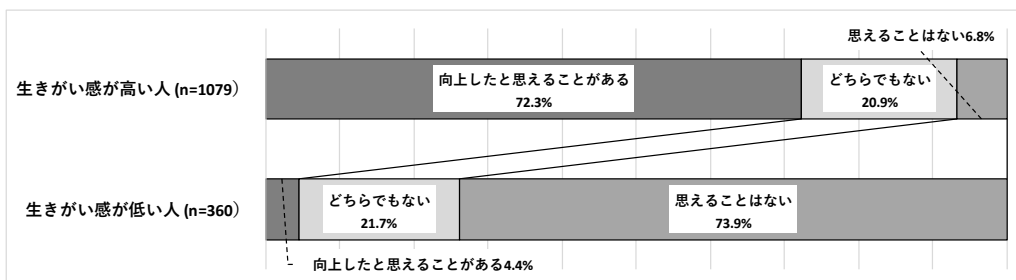
図－９ 生きがい感と社会への貢献・奉仕について

【世の中や家族のためになることをしている】



図－１０ 生きがい感と向上心について

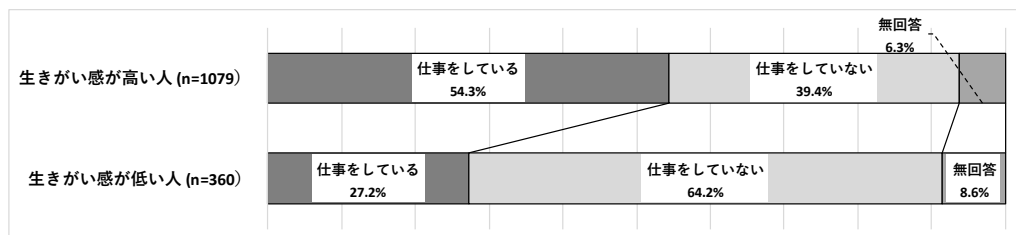
【自分が向上したと思えることがある】



近年、定年制の延長や年金受給開始の延伸等の社会・経済状況の変化から、就業の有無（社会における役割）が、生きがい感に影響を及ぼしている。また、「元気なうちは健康の観点からも頑張って働きたい。」とする考え方が、各種アンケートの結果から読み取れる。

図－１１ 生きがい感と就労状況について

【収入を伴う仕事についているか】



図－１２ 何歳ぐらいまで仕事を続けたいか

※現在仕事をしている人を対象

	n	65歳ぐらいまで	70歳ぐらいまで	75歳ぐらいまで	80歳ぐらいまで	働けるうちはいつまでも	その他	無回答
50代	377	43.8%	18.8%	4.0%	0.5%	25.2%	6.6%	1.1%
60代	340	18.2%	40.6%	12.4%	2.4%	24.7%	1.5%	0.3%
70代	156	0.6%	3.2%	28.8%	13.5%	50.0%	2.6%	1.3%
80代以上	26	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%	76.9%	7.7%	11.5%

図－１３ 仕事をしている理由

※現在仕事をしている人を対象

	n	収入を得たいから	仕事をするのは健康に良いから	経験や技術、知識を生かしたいから	社会や人の役に立ちたいから	何もしないでいると退屈だから	その他	無回答
50代	377	92.0%	16.2%	22.8%	25.5%	12.7%	5.0%	1.1%
60代	340	85.0%	37.6%	30.3%	24.4%	23.8%	3.8%	0.0%
70代	156	62.2%	45.5%	26.9%	20.5%	32.1%	6.4%	3.8%
80代以上	26	38.5%	53.8%	19.2%	15.4%	3.8%	11.5%	3.8%

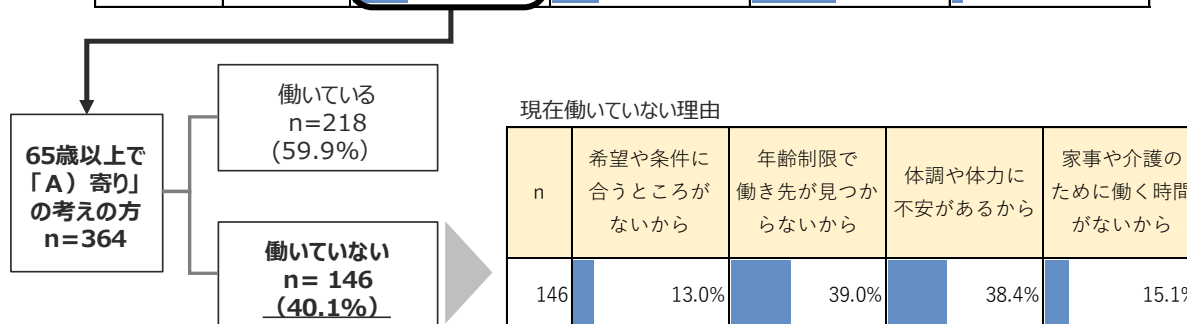
一方、65才以上で就労意向のある人の内、40.1%が現在職に就いておらず、前述したような今日の社会・経済状況を踏まえると、就労意向を持つ人と企業とのマッチング等、就労への機会創出など中長期的課題が浮き彫りになった。

図－１４ 高齢者の就労意欲と就労状況（65才以上の集計）

A) 出来るだけ長く何らかの仕事についていたい

B) 仕事にはつかず自分のために時間を使いたい

	n	A 寄り	どちらでもない	B 寄り	無回答
60-64	292	54.8%	14.7%	27.7%	2.7%
65-69	307	42.0%	17.3%	39.1%	1.6%
70-74	323	33.1%	19.5%	42.7%	4.6%
75歳以上	606	28.4%	23.3%	42.9%	5.4%

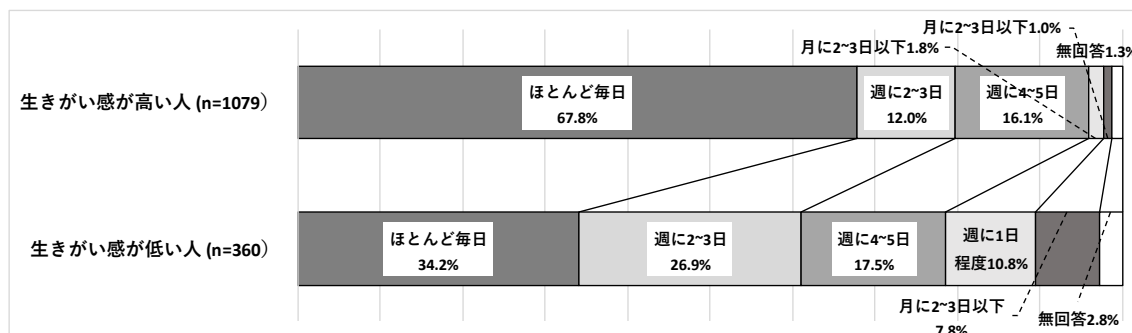


「外出・交流」について

生きがい感が高い人ほど外出頻度が多く、また、多くの人とコミュニケーションをとる機会を持ちたいと考えている。外出し交流する先として、趣味、健康、スポーツ、学習・教養関係のサークルや団体への参加意向が強い。

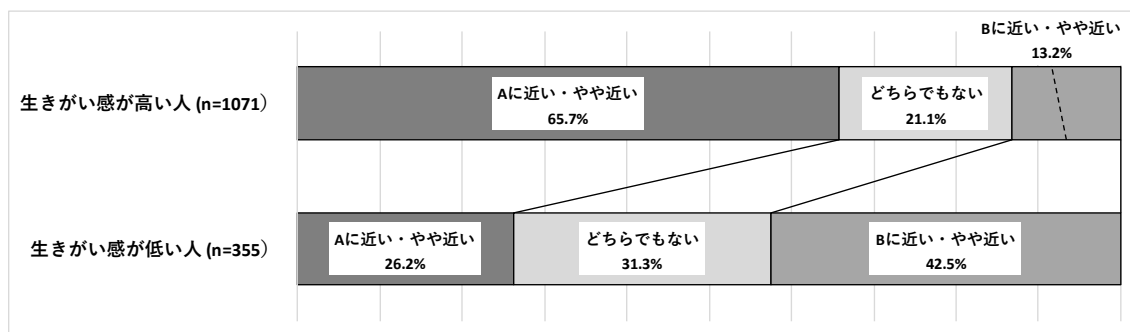
図－１５ 生きがい感と外出頻度について

【外出の頻度】



図－１６ 生きがい感とコミュニケーションをとる機会

【A:多くの人とコミュニケーションをとる機会を持ちたい B:なるべく人とのコミュニケーションをとらず静かに暮らしたい】



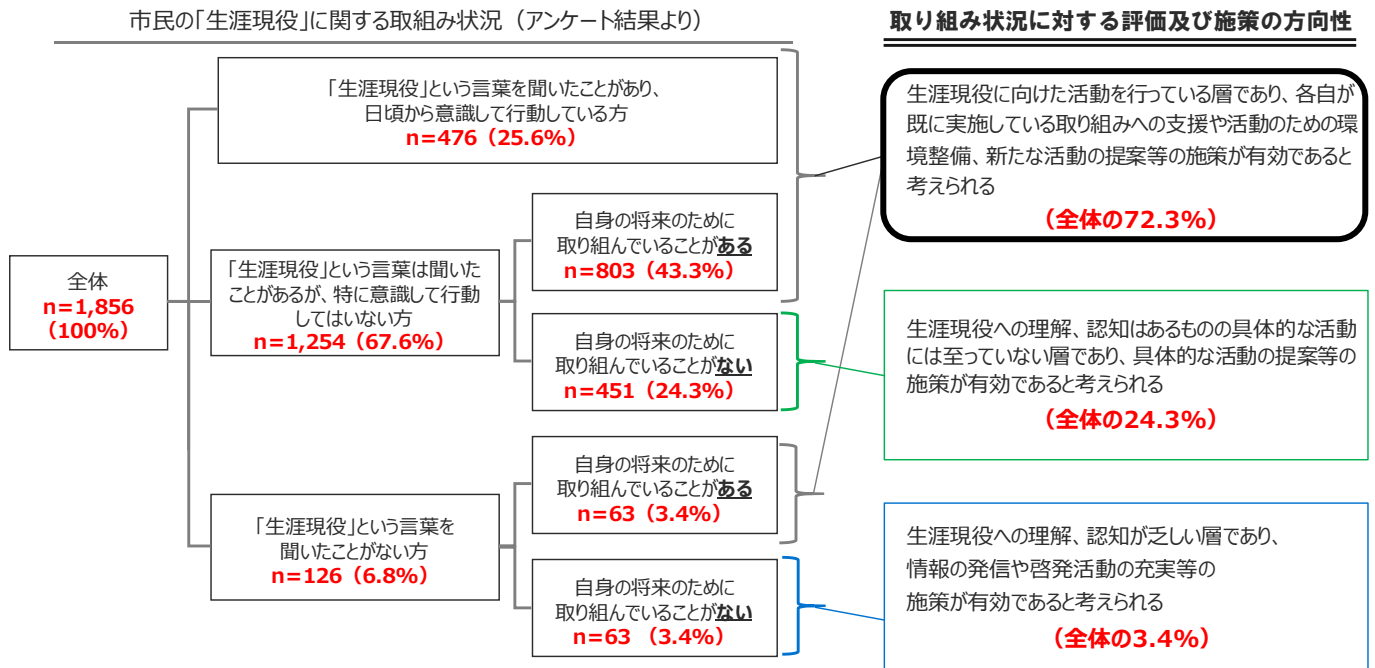
図－１７ 各種団体や組織への参加状況及び参加意向

	n	ぜひ参加したい /参加している	機会があれば 参加したい	あまり 参加したくない	参加したくない	無回答
老人クラブ	2,025	12.0%	15.2%	28.7%	34.5%	9.6%
町内会・自治会	2,025	21.8%	16.3%	32.2%	20.6%	9.1%
趣味のサークル・団体	2,025	16.3%	36.9%	18.5%	18.4%	9.9%
健康・スポーツのサークル・団体	2,025	12.9%	35.9%	21.7%	18.8%	10.8%
学習・教養のサークル・団体	2,025	8.0%	34.3%	25.2%	21.2%	11.3%
市民活動団体（NPO等※）	2,025	2.8%	20.2%	34.5%	29.5%	12.9%
ボランティア団体（社会奉仕団体）	2,025	6.8%	27.3%	30.0%	25.0%	10.9%
商工会・同業者団体	2,025	2.0%	7.8%	33.7%	42.8%	13.7%
退職者の組織（OB会）	2,025	5.7%	13.8%	29.7%	37.6%	13.2%
シルバー人材センターなどの生産・就業組織	2,025	4.0%	20.0%	29.2%	34.6%	12.3%

「生涯現役」に関する取組み

市民それぞれが行っている「生涯現役」に関する取組み状況をみると、意識的、無意識的に関係なく生涯現役に向けた具体的な活動を行っている層が7割強を占めており、「生涯現役」の考え方は市民へ十分に浸透していると考えられる。

図－１８ 「生涯現役」への取組み状況についての整理



次期計画の策定に向けて

多くの市民が「生涯現役」の考え方を理解し、実践しており、今後は積極的な「意識啓発」から、より具体的な活動の提案に関する施策に軸足を移していくべき段階にあると考えられる。

本調査結果では、「健康・運動」「役割・就労」「外出・交流」が「生きがい感」へ影響を与えていることが示唆されており、新たに策定する次期計画では、「健康づくり」、「役割創出・社会貢献」、「学習・社会参画」をテーマにした各種施策の充実を図っていくことが効果的であると考えられる。

アンケート調査から見てくる今後の生涯現役推進施策の方向性は以下のとおり。

テーマ 1: 健康づくり

- 健康づくりに関する関心は年代を問わず高く、具体的な取り組みを行っている人も多い傾向がみられた。
- 一方で、自分や家族の健康状態に関する心配や悩みを有している人は5～6割程度おり、健康のために取り組んでいることが十分な効果を発揮していない、関心はあるものの何をすればよいか分からないという状況が生じている可能性があると考えられ、科学的な知見に基づいた効果的な健康づくりプログラムに対するニーズが高いことが示唆された。
- 先進事例を参考に、多世代で楽しく交流しながら健康づくりをしていく等、幅広い層が参加できる健康増進事業の検討が必要である。

テーマ 2: 役割創出・社会貢献

- 家庭や社会で役割をもち、貢献や自己成長の機会がある人ほど生きがい感が高い傾向がみられており、生きがい感の維持・向上に向けては、自己実現に向けた「役割創出」の推進が有効であると考えられる。
- 役割創出の一つである、就労に関する意向をみると、健康のためにも出来るだけ長く何らかの仕事についていたいと考えている人が多い一方で、65才以上で就労意向のある人のうち、40.1%が職についていない状況であった。
- 家庭や社会における役割の創出という視点と、特に社会における役割(活躍の場)について、就労の視点からも、体調や体力に応じて行うことができる地域での役割や仕事の創出、また、就労意向を持つ人と企業のマッチングなど中長期的な検討が必要である。

テーマ 3: 学習・社会参画

- 外出頻度が高く、多くの人とコミュニケーションをとる機会を持ちたいと考えている人ほど生きがい感が高い傾向がみられており、さらなる社会参画の機会創出や、活動の場の充実が考えられる。
- 今後、市民ニーズの多様化に対応しつつ、社会参加に関する関心を高める講座、地域の担い手を継承していく講座の開設等、あらゆる世代が「生涯現役」について考える機会の創出が有効と考えられる。
- また、自己成長や交流の場として、学びの場や機会の創出も有効と考えられる。